

勝利のカギはチームプレー

町子育連主催の屋内サッカー競技「フットサル大会」が2月11日、金田体育館と金田屋内競技場で開催されました。1チーム5人で編成され、29チーム178人が出場。小学生低・高学年と中学生の部に分かれ、熱い戦いが繰り広げられました。**【優勝】**小学生低学年の部：最強チーム（金田）、小学生高学年の部：KAOSU（金田）、中学生の部：PONTA・brothers（金田）



↑コート外からの応援を背に、相手の守りをかわして、ゴールヘシュートを放つ選手。

↓食進会や栄養士から魚のさばき方を習い、アジの三枚おろしに挑戦する参加者。



楽しみながら調理を学んでスキルアップ

男性にも料理の楽しさを知ってもらおうと、食進会主催の「男性料理教室」が2月4日から3月2日にかけて町内3か所の保健センターで3回ずつ行われました。参加者28人は栄養や健康のことを考え、魚料理や手作りざる豆腐などを調理。三角さんとエプロンに身を包んだ料理人たちは、食進会や栄養士の丁寧な指導のもと、和気あいあいと腕をふるっていました。

視点を変えて楽しくまちづくり

地域福祉部会による「安全・安心なまちづくり・地域づくり講演会」が、2月7日に方城分館で行われました。「目からウロコの安全安心なまちづくり」をテーマに、まちづくり計画研究所の今泉重敏さんが講演。今泉さんが関わっているユニークな発想の事例を聞いた参加者たちは、「私たちの地区でも取り組みたい」と、住民主体のまちづくりに意欲を燃やしていました。



↑時折ユーモアを交えながら、今泉さんが関わってきたまちづくりの事例を紹介。

↓猛吹雪に見舞われたものの、胸を躍らせながら一面に広がる雪上の感触を体験。



福智町「冬季少年のバス」白銀の世界で友情深めた3日間

青少年育成町民会議主催の「冬季少年のバス」が、広島県の恐羅漢スノーパークを舞台に1月25日から2泊3日の日程で行われました。参加した町内の小中学生37人は、初めてゲレンデに立つ子も多く、思い通りにならないスキー板の操作に四苦八苦。練習を重ねるごとにだんだんとコツをつかんだ子どもたちは、年齢や校区も違う仲間と充実した3日間を過ごしました。

↓「老後と経済の活性化のため、貯金は使い切りましょう」など、ユーモアに富んだ講演を行った津川さん。



第6回福智町住民福祉講座 古き良き時代を見習って

1月29日を「健康長寿の日」として制定している福智町。この日にちなみ、町と社会福祉協議会主催の「福智町住民福祉講座」を2月17日に同和研修センターで開催しました。琴華会による「無法松の一生」など懐かしく心に残る名曲6曲の演奏で幕開けした講演会には、「心のふれあい〜いつまでも若々しく」をテーマに、俳優や映画監督など幅広く活動している津川雅彦さんが講師として登壇。津川さんは、「私たちが安心して暮らすために、今こそ“向こう三軒両隣”の精神が必要ですよ」と、心のつながりの大切さを訴えました。

福智町青少年健全育成講演会 現代のイジメを実例から学ぶ

青少年育成町民会議主催の講演会が2月15日に金田分館で開催されました。福岡県立大学看護学部教授・松浦賢長さんが講師となり、「現代のイジメについて考える」をテーマに、イジメの実例を挙げながら、自身の持論を展開。「イジメを受ける被害者に『自殺』という選択肢を与えてはいけない。イジメは生死の問題ではないから」と、来場者に向けて強調していました。



↑不登校・ひきこもりサポートセンター長を務める松浦さんが、鋭い切り口で講演。

↓「お父さんにはどのチョコがいいかな」と、お気に入りの逸品を探す家族連れ。



上野焼協同組合がバレンタイン猪口を販売 あなたへの想いをお“チョコ”に込めて

「バレンタインにチョコ（猪口）を贈ろう」と、上野焼協同組合の10窯元が飲み口がハート型などのお猪口や、博多織袋や久留米餅に包んだセットを、1月30日から2月11日まで期間限定で販売しました。このイベントは上野焼を身近に感じてもらうため、5年前から実施。来場者はいつもとは違う贈り物で特別な相手を喜ばせようと、笑みを浮かべながら買い求めていました。